



日本マスターズ柔道

ホームページ <http://jmja.jp/>

2012年1月15日
JMJA-News 第11号

日本マスターズ柔道協会

〒153-0065

東京都目黒区中町2-45-8-209

電話/FAX 03(3793)1846

発行 会長 清水正敬

第8回日本マスターズ柔道千葉大会 が開催されました



1. 第3回IJFグランドマスターズ大会は(世界形選手権大会と同時に開催)当初エジプトで行うとHPに掲載されていたのが12月に消え、2月中旬にHPでドイツ・フランクフルト6月14日〜19日に変更となった。その後、3・11大震災があり4月末申込で当時の世の中は「こんな時に海外旅行は」と。何となく後ろめたい気分での申込であった。

従来ヨーロッパでの大会は参加者が多いが、その様

新年のご挨拶

日本マスターズ柔道協会会長

清水正敬

2012年の新年を迎え新春のお喜び申し上げます。本年も皆様にとりまして生涯柔道を通して素晴らしい発展の年になる事を祈念致します。

昨年3・11の東日本大震災より10ヶ月、震災に遭われました皆様にはお見舞い申し上げますと共に一日も早い復興をお祈り致します。

◎昨年度のマスターズ柔道の活動全般に亘り振り返って見たいと思います。



鈴木治雄選手(千葉県)の宣誓を受ける清水会長

な事情からか、今回は選手14人、応援団5人の19人と少数であった。

大会は参加国・49ヶ国 選手・1038人、その中でロシアから108人参加でその半分が国の支援を受けて来ていると聞き驚いた。当然予選を勝ち抜いての選手達の様だ?

14日・15日に形選手権大会が行われ、日本代表選手の活躍は素晴らしく5種の全ての形に3年連続の完全優勝を飾った。マスターズ会員の内藤一杉原組が柔の形に出場したが残念ながらメダルには届かなかった。

16日〜19日までグランドマスターズが行われ、個人戦ではM9(70歳以上)8人全員メダル獲得出来たがそれ以下の部M6、M8(55歳〜69歳)は選手数も多く残念ながらメダルには届かなかった。

団体戦M7以上の部先鋒は、-73kg・中堅-90kg・大将 無差別の3人戦でロシア・ドイツ・ウクライナと日本A・日本Bの5チーム・リーグ戦で争われた。(成績順)他国は全員M7の64歳以下であったが、日本チームはM7×1・M8×1・M9×5・M10×1と主力が70歳代であり接戦をしながら若さで残念ながら負けしまった。

ドイツの大將は84年ロス・オリン

ピック(山下選手優勝時に)3位のシュナーベル選手も活躍していた。大会後の恒例の行事・草の根外交として現地道場との交流会は今回少数・高齢で適当な道場が見つからず、観光を主体で楽しむ事とした。

フランクフルト・ハイデルベルク・ミュンヘン・ライオン川クルーズ

ノインシュバンヒュタイン城……等々をゆつたりと堪能する事が出来、夫々に良い思い出を作って帰国した。

2. 第8回日本マスターズ千葉大会は日本武道館勝浦研修センターに於いて11月5日(土)・6日(日)行った。今大会は千葉県柔道連盟の都合等もあり、初の当協会が主管で大会運営全てを取り仕切る事になった。大会事務局設置・役割分担等詰め。第7回新潟大会の素晴らしいノウハウを新潟高橋事務局長から伝授頂き、3月・4月より準備を始めた。大会運営の要・事務局長には千葉県住民で丸の内柔道倶楽部小林副会長にお願いした。

一昨年11月よりHP管理を依頼している兵庫県会員・玉田氏との連絡を密にし、会員の増加傾向の中、要項の印刷・送料等の経費節減の為、HPで大会要項掲載、申込を交付する事に決めた。

要項を6月1日HP掲載、書類の郵送7月1日。ベ日8月31日で受付を始めた。その間、大会当日お世話になる千葉県柔道連盟了徳寺会長・坂本理事長、形審査員・試合審判員へお願い、大会会場の武道館と打合せ、学生係員をお願いした国際武道大学石井先生他、広告・協賛金募集、プログラム作成等の仕事をしながらべ切りを待った。

6月・7月の申込数は少なく、震災の影響かと心配していた。ベ日間近にメールで121件、FAXで293件、内1週間前に80%と集中した。

これらの結果、大会には被災された、岩手・宮城・福島を含む東北6県より29人また、海外から毎年参加のニュージーランド、リトルウッドさん他5人・北は北海道、南は九州より30歳〜87歳の410人の参加者と、貝瀬形審査委員長、関根審判長、千葉県柔道連盟了徳寺会長始め関係の皆様のご協力により盛大に、事故・大きな怪我も無く、無事行う事が出来協会一同感謝致しております。

形の部には7つの形に63組が出場、その中には昨年10月の全日本形大会出場者も何組かいた。特に「古式の形」での上位3組は、全日本形大会3・4・5位の實力

者達で全国大会同様僅差勝負の見応えのある演技であった。また、団体戦では初めて頂いた日本武道館杯を賭け10チームが競い、夫々接戦で勝ち上がった決勝戦は丸の内柔道倶楽部と三田綱町倶楽部だった。ルールで取り決めてない事が生じ今回は両チーム優勝となった。

丸の内倶楽部は小林事務局長の在籍倶楽部で、選手として、審判として、役員として、50人位の方々に協力頂いた。12月26日には我々三田綱町倶楽部と合同の優勝祝賀会を行う予定で楽しみである。

*今大会初の試みとしてHPからの申込の他、次の3点を行った。

- ①健康に関する誓約書の提出を頂いた。
- ↓高齢者も多い大会で不慮の事故が起った場合。大前提として自己責任として徹底して行く事。
- ②ゼッケンの取り付徹底、10枚の白布を用意し忘れた人に付けさせた。
- ↓お互いの名前と顔が一致し一層の親近感が増した。
- ③ボランティア審判員の採用で千葉県柔道連盟の幾分か負担減になった。

つけ、より良い大会を目指したい。

◎2012年度のマスターズ柔道の予定。

年間計画として6月の海外(世界マスターズ・JFグランドマスターズ)

秋9月〜11月日本マスターズを楽しんで来たが、今年度は10月〜11月が多忙になりそう。

1. 第4回JFグランドマスターズ大会

10月30日(火)〜11月4日(日)

場所・ブラジル・サルバドル・ビーチリゾート地

従来世界マスターズ10回・JFグランドマスターズ3回共に6月に行つて来たものが、今回初の秋の大会となる。

(2007年6月・世界マスターズ・ブラジル大会には選手37人・応援9人で参加した)

2. 第9回日本マスターズ柔道大会・山口は 11月10日(土)・11日(日)

山口県柔道協会森次会長のご協力により、マスターズ柔道協会との共催で山口県周南市 キリンビレッジ周南総合スポーツセンターに決定2月〜3月に現地視察・打ち合わせに訪問予定。等が今年の主な予定です。

《今後検討事項として》

◎会員1400人弱何処で開催しても参加者400〜500人集まる大会にしたい。

まだ、まだ、会員数少数の県・地区が多くある。

山口大会に向けて、支部作りを検討中。5回出場表彰者(6回目出場時)

1回目表彰大分44人2回目表彰新潟36人3回目表彰千葉48人の皆様はマスターズ大会の良さを理解しておりますので、年齢・段に関係無く役職をお願いしたい。

先ずは中国・四国・九州・近畿・東海・北信越を早期立ち上げた

◎今年度の山口大会 HP申込率の向上を図る。(29.2%→70%位に)

会員年会費2000円↓10%の200円引とか?検討したい。

◎最後にマスターズと「段」についての問題提起をさせて頂きます。

平成15年・第5回世界マスターズ講道館大会時から毎回聞かれる話として、昇段の点数に成らないか、との問合せである。本大会は、年齢、体重別の試合故

駄目との返答をして来た。

今大会では30歳から87歳、(80歳代5人)410人の年齢と段との関係を大雑把に見ると高齢のM7(60歳)以上の119人は、柔道を若い時から継続していた人は5段以上に?学生時代柔道をやっていたが、仕事で止め、定年後再開した人は、学生時代の段2段〜4段?位で、その人達は昇段の機会は少なく、(高齢で低段者の試合が無い為、)5段以上は高段者大会として何試合か有る。例えばマスターズ大会で3段が6段・7段相手に勝つても何の評価も無い。勝ち負けに拘らず、楽しむ、この大会とは云え、誰もが一つでも上の段を目指したいもので、せめて5段位までの認定試合となる様に今後検討をお願いして行きたい。そうなると、今後新たな復帰者が期待され、全柔連登録増と共に国が目指す、健康長寿の元気な老人に成る事により医療費減に繋がり大いに意義の有る事とを感じる。食事・適度な運動・人との触れ合いが、健康長寿の秘訣です。正にこれです。今年も元気で道衣を着、良い汗とビールでマスターズ柔道を楽しみましょう!

日本マスターズ柔道大会に想う

日本マスターズ柔道協会顧問

貝瀬輝夫



第8回日本マスターズ柔道大会は、東日本大震災や昨年までと違った大会運営などの案件が重なり、大会開催そのものがどうなるのかと案じたが、清水会長をはじめとする関係各位の粉骨碎身の努力により、想像を超える程の立派な大会となったことは望外の喜びであった。このことは「案ずるより産むが易し」の貴重な体験となったであろうし、今後の日本マスターズ協会発展にとつて、一つのハードル越えの自信ともなり、大変意義深く喜びにたえない。

今年の大会は、南房総勝浦市に手弁当で全国各地より400名を超すマスターズの獅子達が集い、昇段の認定試合とならないにもかかわらず、「形の部」「試合の部」の双方に於いて、美しい汗の一滴を競い合い、悲喜こもごものドラマを展開して成功裏に大会が終了したことは、とても嬉しいことであった。

私はこれまで、大会役員や競技役員として各種の大会に携わる機会に恵まれ、それぞれの大会

会がもつ意義や技術レベル等を見聞きし、色々な柔道の世界を愛して、哀しんで、命をつないできたように思う。

運よく勝利の栄光を手の中に入れた者、武運つたなく敗れ去った者等々、柔道の試合や勝負の世界を通して、さまざまに生きる人達の心を知り、その後姿を追いかけてきたような気がする。むしろ、マスターズ大会でも然りである。

周知のように、柔道は「勝った、負けた」に止まるものではない。マスターズの試合では、勝つてよし、負けてよし、その懸命さ、ひたむきさに私は感動を覚えるものである。

ある。日本マスターズ大会は、回を重ねて「礼節を重んじ立派な態度で正しく組んでやる柔道」が定着してきている気運が認められ、そして、それは生涯柔道のひたぶるさを欲しいままにし、心奪われるものであったように思う。

私がマスターズ大会と関わりを持つようになったのは、2003年の第5回世界マスターズ大会を、柔道の宗家講道館で行いたいと来館した野口宏水名誉会長(当時世界マスターズ協会副会長)との出会いに始まるものである。講道館の大道場を4日間にわたり貸し出すことは、容易ではなかったが、野口先生の真摯な態度と柔道に関する情熱に感銘を受け、会場として貸し出すことになった



第8回日本マスターズ柔道千葉大会 懇親会

経緯は今でも記憶に新しい。現在も先生は、マスターズ柔道の発展に心血を注ぎ、八面六臂の活躍をしている。感謝の念でいっぱいである。

近年、生涯教育、生涯スポーツなどが大きく取りざたされている中で、マスターズ大会の発展は、生涯柔道の道を拓くと共に、少年柔道や中学の武道必修化などにも少なからず良い影響を及ぼすものとなる。

マスターズ柔道と柔道事故

愛知県がんセンター総長 二村 雄次

名古屋大学柔道部 師範



平成24年4月より中学校の体育の授業は年間90時間から105時間に15時間多くなり、1、2年生では「武道」が必修となり、柔道・剣道・相撲のうちから1種目を選択することになります。3年生では「武道」か「球技」のどちらかを選択することになります。一方、最近中学校や高校の部活動あるいは授業中の重症柔道事故が多発していることが報道されています。そのうちの死亡事故例は年間平均4名であり、これは余りにも多過ぎます。全柔連医科学委員会では平成21年12月以来、柔道事故の実態

調査を開始しました。特に死亡事故の主因である頭部外傷のうち急性硬膜下血腫の場合、緊急手術を行っても死亡率は高い。そこで徳島大学脳神経外科の永廣信治教授が中心となって急性

今後、大会に関わる問題点等も出てくるかと思うが、現実を直視しつつ、柔道人として微力ながら更なる発展に尽力したいと思うこと切なるものがある。なにかと多忙にかまけて、急ぎ思うがまま駄文を連ねましたが、ご意見、ご叱責を賜ることができれば幸いです。

硬膜下血腫の発生原因を明らかにして、安全指導プロジェクト委員会が全柔連発行の「柔道の安全指導」(2009年度、第二版)の改訂を行い、2011年6月に第三版を発行しました。この中で「脳振盪」には厳重に対応するよう対応マニュアルを作成しました。「脳振盪」が発生した場合、必ず救急車を要請して脳神経外科のある病院でCT検査を受けるように記載されています。

運動神経は加齢と共に鈍くなつてきます。言い変えますと、年と共に運動能力が鈍くなつてきますので、高齢者が柔道のような格闘技を行うと怪我をする確立が高くなることが危惧されます。マスターズ柔道大会での事故の発生率は高いでしょうか？

私は長い間、医科学委員会委員として、日本選手権(天皇杯、皇后杯)とか国際大会(世界選手権や嘉納杯、東京グランプリ)でドーピング・コントロールやマツト・ドクターの仕事をやったり、学生の試合も50年以上見てきました。重傷頭部外傷、脳振盪、骨折、捻挫などの緊急治療を要する事故の発生率は科学的に研究をしたデータを持っている訳ではありませんが、マスターズ柔道大会の方が低いと感じています。何故でしょうか？ マスターズ柔

道大会に出場する選手は長い柔道キャリアを誇り、生涯柔道の熱意を持って常に柔道の練習を続けている方が多いように思います。また「引き分け」でもいいという気持ちで高段者大会に出場する選手と違って、皆さん常に優勝を目差して常日頃練習を続けている方が多いからではないかと思えます。もう一つ、年齢が近い者同志の競技というのが事故率を低くしていると思います。気を付けないといけないのは年齢の離れた若者とマジな稽古をすることです。若者と高齢者では

新年のご挨拶

日本マスターズ柔道協会名誉会長

野口 宏水

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

新しい年を迎えまして、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。昨年の東日本大震災・大津波・原発事故被害の復興に向けて「がんばろう！日本 心はひとつ！」の合い言葉を胸に、微力ながら何らかの一助になれるよう心して行きたいと念じております。

本年も相変わらずのご交誼をお

反応速度(スピード)にかなりの差があり、瞬発力にも大きな違いがあります。私の場合、手足の捻挫や肋骨・肋軟骨の損傷は学生との乱取り中に発生しており、年齢の近い人との練習や試合ではあまり怪我をしていません。いずれにしても、年をとつてから運動する時は特に柔道のような「無酸素運動」などでは、ウォーミングアップ、柔軟体操を念には念を入れて十分に行つてから始めるようにしましょう。これが事故防止の秘訣だと思います。

願い申し上げます。(2012年賀状より)

旧年の大地震 大津波 原発事故 更には風評被害等々の渦中の被災地域から 第8回千葉マス

ターズ大会に50人になんなんとする多くのマスターズ柔道家が勇躍参加出場されたことは、真に心強く、感激いたしました。

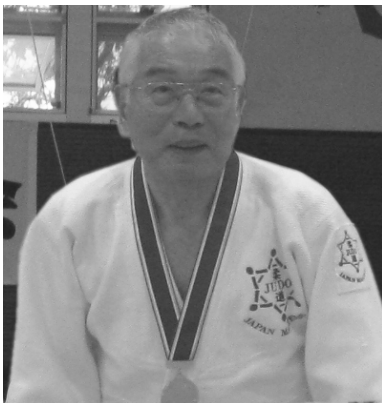
譬えようもない苦しみと悲しみ

とに遭われたであろうに、日本武道館勝浦研修センターの畳の上に立つて、形に試合に自分自身を代表して全力を発揮されたことを思う時、感動の高まるのを覚え、改めて元気を頂きました。大会に参加して良かったです！の、鬼柳一宇常務理事のお手紙をご本人のご承諾を得て茲にご紹介いたします。

前略

勝浦市で開催された第8回日本マスターズ柔道大会では、大変お世話になりました。現地で撮影した写真ができましたので同封させて頂きます。

今回の大会で今年度のマスターズ大会、高段者大会の全てのスケジュールが完了しました。幸いにして出場資格を有する国内外の大会すべてに出場し、怪我もなく乗り切ることができました。



(筆者註：国外の試合とは、ドイツフランクフルトで行われた第3回IJF世界大会で、09年第1回ドイツ・ジンデルフィンゲン大会10年第2回ハンガリー・ブタペスト大会に、3大会全て金メダルを獲得された。)

本年も残すところ1カ月余りですが、後は本業の経営者として12月決算を有終の美で締める事に全力を投入する覚悟です。

今年は東日本大震災で一時的に操業停止を余儀なくされ、ようやく24時間稼働体制に復帰後、欧米の金融危機及びタイの洪水による世界的激動の中で、新たなビジネスモデルの在り方を模索しているところです。

幸いにして柔道を継続することによる気力、体力は有りますので、岩手で誕生した零細企業を、世界で戦い勝ち抜ける企業に成長するために全力疾走するつもりです。(同註：中国欧米各国に従業員総数500人を抱える生産材設備会社、株式会社アイオウ代表取締役で第3回フランクフルトマスターズ大会出場時には欧州駐在員を招集、欧州会議を開催されたとのこと。)

人生の終盤戦において柔道界に復帰し、多くの柔道仲間を得たことは何物にも代えがたい財産と考えております。

今後ともお互いに健康に留意し、一日でも長く立ち続けるよう頑張ります。草々

平成23年11月15日

岩手県花巻市 鬼柳 一宇

これぞ正にマスターズ生涯柔道家・生涯実業家。『意志在る処道あり！』精神一到何事不成乎！の日本男児ここに在り！と云わずして何と云うべき乎！

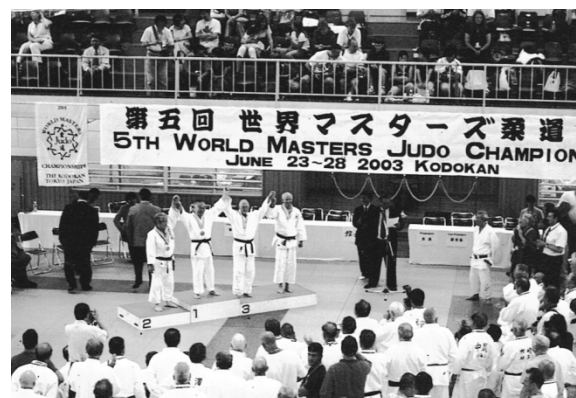
「小川郷太郎元大使主催「絆剛の会」と山下泰祐NPO法人柔道教育ソリダリテイ理事長の講演会。

去る11月29日 霞ヶ関ビル東海大学迎賓サロンにて 山下泰裕理事長による「柔道を通しての世界の絆」と題して講演がありました。山下先生は2003年第5回世界マスターズ講道館大会のメダル授与式で、世界の金メダリスト(小生もゴールドメダリストでした！)に金メダルを授与して戴き「世界のヤマシタからゴールドメダルを掛けて貰った！」と未だに感謝されています。先生は人生を4つに分けて今は第4の人生を歩いている。9歳にして柔道に出会い、前人未到の全日本9連覇、ロス5輪金メダル、203連勝等々数々の金字塔を打ち立てられた現役時代を第1の人生、全日本監督指導

者時代を第2の人生、更に国際柔連理事として日本の柔道界を外から支えられた時代を第3の人生、そして現在は柔道のみならず、広い視野から教育、スポーツの発展、国際交流と平和のために活動する第4の人生を歩いている。(プーチン大統領との交流や一ツ橋柔道OB奥田経団連会長のアドバイスによりNPO法人を立ち上げ自分の目指す道に専任出来るようにしたこと、イスラエルとパレスチナ両国少年柔道の合同稽古と日本への招待等々)。そして第4の人生を全うしたら今までの過去を現在に生かし自分でも柔道を楽しみながら第5、第6の未来の人生へ向かって生きて行くのだとの烈々たる情熱を迸らせながら語られて並みいる聴衆に感動と元気を与えて戴きました。

この並みいる聴衆を集められたのが小川郷太郎閣下で、我がマスターズ生涯柔道草の根外交使節団が海外大会に参加する度にいつも、日本国大使館、総領事館等在外公館をご紹介戴き、表敬訪問をさせて戴いた(数々のご紹介を戴いた中で、第4回ロンドンデリー大会の帰途、ロンドンのブドウクワイ道場にご息を伴って交歓稽古をご覧戴いた際、ワセダラガーマンとは知らずに、い

いお体ですから柔道をやられたら強くなられたでしょうに」とお話して、その後幾許も経ないうちにイラクにてテロの凶弾に斃れられた故奥、克彦イラク支援大使：「在連合王国日本国大使館参事官・広報文化センター長」のお名刺を頂戴した：が今でも忘れられない。閣下は赤門柔道倶楽部員でカンボジア・デンマーク大使やイラク支援大使を歴任され、その広い交友と高い識見から、人と人との「絆」を拡げ人生を更に豊かにしてもらおうと「絆郷」という交流の場を立ち上げられた。今回の山下先生のご講演は第8回で、今後も色々な分野で活躍されている著名・有名人を講師に計画されており



マスターズ会員が多数参加しております。このサロン開催と併せ、閣下の任地だった諸国、諸地域を訪問する楽しい海外旅行も(今まで韓国フランスそして今ハワイ募集中)実施、計画されています。ご関心の向きは小生まで一報下さい。

「映画「ロボジイ」のこと」

去る12月7日、在京マスターズ有志約10人が、イイノホールでの試写会に行ってきました。映画は五十嵐信次郎「ミッキイ・カーチス主演の73歳のジーサマが仕事を離れて一人身の徒然の退屈しのぎに応募した仕事の役割(役柄)がロボット博覧会出展直前にロボットが壊れたため、ロボットの自身の身代わりにそのロボットの中に入れられ、奇想天外の驚きを振り撒くと云う喜劇映画で、そもその試写会参加は我がマスターズ柔道協会に、元氣なご老人が居ませんか？と清水会長のとこに出演依頼があり、ハイ、一杯あります。その中で年令79歳の安河内浩東大医学博士6段とその相方は同じく赤門柔道部出身73歳永島健次郎5段との名コンビに試写会前のエキシビジョンで古式の形を演じて戴きましようということになりましたが、直前主催者側より「残念

ですが、舞台に畳を運びきれませんの」とのこと。代役として73歳のボディビルダーと70歳の縄跳び世界記録保持者と79歳を最年長とする平均年齢65歳の15人位のライندگانサー老女連の出演となりました。因みに主催者は当日の限定60歳以上入場者447人の合計年齢が3万1084歳とかで、一劇場観客入場者年令総計が世界一でギネスブックに申請しますと発表してありました。(ギネスブック掲載について小生の世界マスターズ10回金メダルのギネスブック申請は同大会が12回で中止されたため大会の後続がないので申請を取り止めたことを茲許ご報告します。)

ともあれ、このロボジイは元氣なお年寄りが時たま暴走して若者を困惑させるという破天荒な映画で、本年1月より封切られるとのこと、お孫さんをお連れして元氣を出して下さいと呼びかけていました。

「第8回大会古式の形優勝、清家春夫JMA副会長7段、駒崎義一7段組が世界グランドスラム最終日に模範演技を披露」
12月9～11日、千駄ヶ谷東京体育館で開催された世界グランドスラム東京2011最終日に

我が第8回マスターズ大会 古式の形優勝（取）清家春夫7段（受）駒崎義一7段組が選ばれて重量級準決勝戦の前に 晴れの模範演技を披露して 満座の大喝采を受けました。大会を通して当日の男子100kg未満・超のみ金メダルに届かず残念でしたが清家・駒崎組の演武は マスターズ大会に優勝してピタリ呼吸が合い重量級試合の欲求不満を和らげてくれるものでした。

最後に“

マスターズ大会では 毎年 80歳以上の方にマスターズ功労賞を 5回出場者に5回出場賞を行っていますが 今年 は前者が5名 後者が46名と多くの方々が受賞されました。特に前者の功労賞では 小生もあと4年で受賞年令に達しますので第8回大会では 改めて最高年齢まで出場して 受賞したいものだと思いましたが 現在 美濃岡清三郎先生87歳 太田尚充先生85歳・とまだまだ元気旺盛な

“年を重ねるだけで人は老いるものではない・”のサミュエル・ウルマンの“青春とは”を地で行く老青年がワンサと居られ とても敵わないかな？それには好きな酒を控えるべきかな？と思うもそれはそれは？？全く不可能！

クワイート インポシブル……

ともあれこの最年長出場を目指して 平凡ですが 一日 一月一年……と精進を重ねて 後は神様 仏様に任せて お迎えが来たら マスターズ最年長になるまで待つて下され！と追い返そうと念じています。

それにしましても マスターズ大会に出場していますと 思いもかけないところで 楽しい再会・新しい出会いがあり 出場しないでしたら こんな楽しい人生を味わい得ないと思ひ 健康を与えてくれた両親 健康に氣を使ってくれた妻 更に大会で会えるマスターズ同志に“感謝” “感謝”あるのみです。本年も 第9回山口マスターズ大会で元気で再会しましょう！

第3回 世界グランドマスターズ

柔道大会 及び

世界形選手権大会

柔の形、M9（73キロ）、

団体戦 参加者

栃木県 内藤 純

右記大会が、ドイツ フランクフルトにて、6月14日より 19日まで開催され、参加することが

できました。

6月12日 午前9時30分 成田を出発、今回は他のマスターズの人達は、形の競技に参加しないとのことで、相手になっていたたく杉原先生、応援に中島先生、私のかみさんと皆さんより先に出発しました。フランクフルトに午後2時20分ごろ到着、現地ガイドさんの案内で、ヒルトンフランクフルトホテルにチェックインし、夕食まで時間があつたので、ホテル周辺を杉原先生らと散歩。

6月13日 世界グランドマスターズ柔道・形の部登録
ガイドさんの案内で大会会場へ形大会の登録と会場を見学、ホテルに戻りガイドさんの案内でフランクフルト市内を観光した。



女子団体戦準優勝チーム監督として

6月14日 朝から投の形、固の形、柔の形の大会が始まり私と杉原先生は、柔の形に参加、他の選手はほとんどが国の代表選手で、とても歯が立つような相手ではなかったが、いい経験が出来、参加してよかったと思う。出来れば、もう少し練習を積み、もう一度チャレンジしてみたい。

効を取られたが反撃を繰り返し、なんとか勝利することが出来た。2回戦はドイツの選手。この人はい前にも試合をしたことがあり、気楽に試合をすることが出来た。そして、最後の相手もドイツの選手で身長も高く力があり、最初には有効を取られてしまい、これでおしまいかと思つたが、攻撃に攻撃を重ね、ゴールデンスコアになり勝利し、優勝することが出来た。これも上木先生や皆さんの応援によるものと感謝しております。

6月15日 試合の部登録
ホテルより地下鉄バスと乗り継ぎ、大会会場へ登録を済ませ、計量の場所にへ向かい、部屋に入り稽古着を脱ぎ出したその時、脱がなくても良いとのこと、戸惑っていると、再度そのまま計量器に乗るとの事で仕方なく計量器に乗ると、計量係の人が横から私の身体を抱えて、計量。パスするようにしてくれた。でも、せっかく減量をしたのにと有難迷惑に感じた。

ちなみに、第1回ドイツ大会で第3位、第2回ブタペスト大会で第3位でした。

6月16日 個人戦 M9（73kg級）に参加
午前中はM6ーM7の試合があり、午後はM8よりM10の試合
私は一回戦モルディブの選手と対戦。試合が始まり、すぐに有

6月17日 ライン川クルーズ
朝6時起床でフランクフルトの街を散歩。7時30分ごろ 朝食を取り、今回一番の楽しみのライン川クルーズにバスで出発、ザンクトゴア・ハウゼンより乗船対岸の景色は大変素晴らしく夢を見ているようでした。途中ローレライの曲が流れ、素晴らしい観光でした。

6月18日 団体戦登録
団体戦に登録する人達と地下鉄にて会場へ行き、登録完了。
6月19日 団体戦参加
ホテルから地下鉄、バスと乗り

続いて会場へ。参加5チーム ロシア、ドイツ、ウクライナ、日本A、日本Bでリーグ戦を行った。この団体戦は60才以上の選手で、73キロ以下1名、90キロ以下1名、無差別級1名で3名対戦での試合であり、日本選手のほとんどが70才以上。尚Bチームにおいてはほとんどの選手が軽量小柄の選手、やる気は人一倍でしたが、Aチーム、Bチームとも成績がいまいちでした。でも楽しい試合でした。

日本A 私のチームは、内藤純、上木保男、栗本忠弘、清水正敬

もう一組Bは 中島 忠、西久保博信、鬼柳 一宇、山本健夫チーム

6月20日 大会は全て終わり観光

専用バスにてフランクフルトを出発しハイデルベルグ観光。第1回グランドマスターズの大会の時に観光していたので懐かしく感じた。

ハイデルベルグよりローデンプルグへ夕方ホテル アルテス ブラウハウス到着 市内を徒歩で観光。

6月21日 移動と観光

早起きし、希望者でローデンプルクの城壁を1周。朝食を取り専用バスにてロマンチック街道を通

り、ノイシュバンシュタインに到着、素晴らしい城を見学、昼食を取り出発。ミュンヘンのマリタイムホテルに夕方到着、夕食はビヤホールへ。歌や踊りを見ながらの楽しいひと時だった。

6月22日 ミュンヘン午前中観光、午後3時45分のフライトで帰国。

第4回大会はブラジルとの事で大勢の皆さんと参加できればと思います。

「第3回グランドマスターズ柔道大会参戦記」

柔道大会参戦記
岩手県 鬼柳 一宇

6月にドイツ(フランクフルト市)で開催された第3回グランドマスターズ柔道大会に参加し、幸運にも優勝しJF主催の大会では3連覇となりました。

同行した先生方は、既に顔馴染みの方々でしたので、試合の緊張感から開放された後は各地を観光し楽しく過して参りました。

私は高齢の柔道修行者であると共に現役の経営者でもあります。学卒後サラリーマン生活を経て37歳で独立創業し、現在は国内及びアジア、欧州、米国に

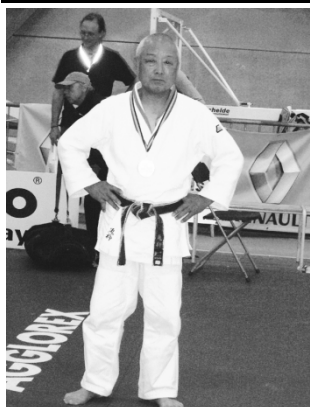
生産財機能部品を供給しています。

生産財とは工作機械、産業用ロボットなどの総称で、リーマンショック以前は日本の生産財が世界の製造業をリードして来ました。然しリーマンショックを境に中国を始めとする新興国に追い抜かれ、その主戦場は新興国及び欧米に移行しつつあります。

今回のフランクフルト行きも、試合出場と共に販売商社の欧州支社長との市場攻略に関する打合せも含まれていました。

我国が敗戦の廃墟の中から立ち上がり、米国に次ぐ経済大国に成長し得たのは、基盤技術による高付加製品の輸出によるものでした。然しこの構造は新興国群に移行し、我国は人口減少による国力衰退と急速な円高により、国内生産による輸出形態は限界に達したと言えます。

これに対応する為には、急成長する新興国における製造、販売戦略が不可欠な条件となります。



我社の海外現地法人は中国(無錫市)のみですが、市場競争を勝ち抜く為には、周辺諸国の印度、タイ、ベトナム、インドネシア等に対する方針決定が急務です。

自身の年齢から逆算すれば、現役経営者として全力疾走出来る時間には限りがあります。当然道場で人間相手の練習時間を作る事は不可能であり、出張先で畳一枚のスペース内での独自修練による心身強化が全てになります。

この年齢になって柔道を継続しつつ、自らが興した会社を、世界に通用する企業に成長させる夢を追い続ける時間がどれだけ残されているのか。人生の終盤戦と言うのは何かと忙しいようです。

第3回グランドマスターズ世界柔道大会に参加して

メダルの代わりに

肩を吊つて...

神奈川県 三橋 英夫

私が世界マスターズ大会に参加するようになったのは、全国や関東高段者大会には出てはいますが、一度は、世界と名のついた大会に出場してみたからです。それが2003年講道館で開催

された第5回世界マスターズ大会でした。

出場してみても驚いたのは、高段者大会と違い、「引分け」なし、決勝戦まで行くには、数試合勝ち抜かなくてはならない。また、その試合内容は、年齢を忘れ、身体を張った真剣勝負でした。年齢を重ねても、心臓をどきどきさせて、こんな試合に堂々と挑んでいる人達。日本に、世界に多くの柔道仲間がいる喜び。そして、ひとたび試合が終われば、懇親会場では、お互いの健闘を讃え合い、親睦を深め、お互いの柔道環境、柔道の稽古・指導方法、体調管理方法等、話は尽きません。すっかりマスターズにハマってしまいました。

それ以来、日本マスターズには第1回大会以来、毎回参加。世界マスターズ大会にも4回参加させてもらいました。今回ドイツのフランクフルト開催なので、いつ



も家庭を守り、私の身体を気遣って健康食を工夫し、柔道を応援してくれる家内を誘い参加しました。

大会は、カールバツ・スポーツセンターで室内陸上競技場のトラックの内側に作った仮設の試合場で開催。私は、M8、-81kg級、1

回戦はフランス選手との対戦、欧州の選手は、手足が長く、力が強い、日本の柔道家では考えられないところを持っている。昨年優勝したモントリオールのように行かない。慎重に

試合を進めようと思った瞬間、相手の右の体落しがくる、引手を切るうとしたが、切りきれず、右肩から固いマットに落ち、その瞬間「ギク」という鈍い音がして

激痛が走る。「技あり」寝技にけるのを必死に逃げ、立ち上がったものの、右肩が使えず、敗退。

世界の強さと、まだまだ未熟な自分の柔道を思い知らされた。

団体戦の日本チームは、外国チームに比べて年齢は10歳上、体重は半分
位でしたが、熊のような大男の外国選手に対して、巧みに体を裁き、技を掛け、国内で選抜されたナショナルチームを苦しめて、善戦健闘し、素晴らしい試合を

見せてくれました。正に、「柔よく剛を制する」日本柔道の真髄を見ることが出来たのではないかと思います。

大会の後は、ツアーの仲間と柔道談義をしながらのドイツ観光を楽しみました。

銀行、金融の街ですが、緑の公園が広いフランクフルトの散策、古城が見守るドイツ最古の大学街ハイデルベルグ、そして、ロマンティック街道の終点、カレンダーや絵画に必ず登場する美しい城ノイシュバンシュタイン城の見学等、等を楽しみました。特に、ノイ城は、家内の念願の地であり、女房孝行ができたものと思います。しかし、肩の負傷で右手が使えず、旅行中、看護や着替えの世話になつてしまい、また、大きな借りを作つてしまいました。

毎年、高段者大会、マスターズ大会を目指して、丸の内柔道倶楽部、講道館、税関等で稽古していますが、今回の試合を反省し、次回に向けて更に精進していきたいと思っています。

今回は、個人戦で負傷してしまい、当初予定していた団体戦に出場出来ず、チームの皆さんに大変ご迷惑をかけたこととお詫び申し上げます。しかし、家内と

初めて参加したマスターズ大会で、ライン川クルーズの白ワイン、ミュンヘンのドイツ黒ビールとソーセージ等楽しい思い出が沢山出来ました。清水会長初めチームと応援団の皆様に変更して御礼申し上げます。

グランドマスターズ国際大会

(ドイツ・フランクフルト)



大会結果

参加国数…49カ国

(男子48カ国、女子25カ国)

参加選手数…1038名

(男子891名、女子147名)

氏名 年齢 階級 結果

1 清水正敬

2 高橋 勘十

3 杉原尚

4 岡田庫二郎

5 山本 健夫

6 鬼柳 一宇

7 中島 忠

8 内藤 純

9 栗本 忠弘

10 西久保博信

11 三橋 英夫

12 大上 敏幸

13 上木 保男

14 大塚 俊彦

15 佐々木裕二

16 宮本 功三

17 中村 年秀

大將 無差別

日本A…内藤、栗本、清水、上木

先鋒73kg以下

中堅90kg以下

【団体戦】

TM (M7以上)

3人制に2チームエントリー

3人制に2チームエントリー

中堅90kg以下

大將 無差別

日本A…内藤、栗本、清水、上木

日本B…鬼柳、山本、西久保、中島
ドイツ、ロシア、ウクライナ、日本A
日本Bの5チームのリーグ戦
試合結果
日本A…4位、日本B…5位

東日本大震災と日本マスターズ千葉大会

宮城県仙台市若林区

佐藤 真生

地元 仙台で体験した3・11東日本大震災。その瞬間は会社の二階におりました。お客様と契約直前の打合せが終わり、事務所二階の自席に戻ってホッと一息。その直後の揺れでした。1974年生まれの私は「宮城県沖地震」も体験しておりますが、生涯で「最大・最長」の揺れだったと思います。社内には滅茶苦茶。壁に固定したキャビネットですらバタバタと倒れていきました。正に足の踏み場もない状況。ゴゴゴツという大きな地響きとともに激しく揺れている最中、女性社員



は机に隠れて悲鳴を上げておりました。その間は、机を押さえ周囲を見ながら「大丈夫だから隠れている！」と、大声を張り上げることにできませんでした...

幸い社員に怪我人もなく、倒れた棚や机を乗り越えて外に出ると、多くの近隣の人々が状況を把握できずに右往左往しており、道が出ない、道路の信号が動かない、そこから「始まり」でした。

津波の情報を知ったのは、ふだんの何倍も星が輝く夜を迎えてからでした。仙台市内の大多数の人間は、全国の皆さんより随分遅く津波の惨状を知っていました。なにも電気が通っていません。TVが見られません。凄惨な津波の映像は、随分と時間が経過して初めて見ることができました。私の妻の祖父と親友も津波で流され亡くなりました。その心境を思うと、自分がいかに幸運であるか、考えさせられます。

生まれてこのかた、懐中電灯とロウソクだけで何日も夜を明かす経験は初めてでした。建設業を営む我が社では、震災の翌日から危険回避作業や応急対応

で休む暇もありません。震災直後は、福島原発の情報を気にしつつも雨や雪に打たれながら全員で現場に出ました。今考えるとその危険性にゾッとします。

休みなく無我夢中で1ヶ月ほどが経過し、ふと心の中で想ったのは、誠に不謹慎な話ですが「今年はマスターズ大会に出られるかな？」何故かそこ家族を亡くした、親戚を亡くした、家を無くした、そんな人々が身近に溢れている最中でも、「いつから稽古を始められるかな...」などと考えている自分がいきました。

つくづく自分は「柔道バカ」なんだなあって呆れてしまいました。でも、やりたいものは仕方ありません。震災から三ヶ月後に稽古再開のお話を頂き、日頃から大変お世話になっている地元東北学院大学へ喜び勇んで稽古に行きました。日本マスターズ柔道協会のメンバーでもある高橋師範や阿部監督、心配していた福島出身の学生達とも久々に顔を合わすことができ、ホッと安心したのを覚えています。

そんなこんなで日々復旧工事のお手伝いをしながらも、少しづつ

地道に稽古を重ねていきました。なぜなら、前年・新潟での雪辱をなんとか千葉で晴らしたかったからです。

ただし、その雪辱は決して「試合で負けたこと」に対してではありません。

「試合に臨む姿勢」、「試合の内容」、「それに伴う当然の結果」。情けない自分自身に雪辱しなかったのです。新潟大会は、勝った試合も含め最低の内容でした。

なぜ、積極的に攻めにいかなかったのか？なぜ、無難に勝とうなどと考えたのか？なぜ、残り1分を切っているのにまだ勝てると勘違いしていたのか？秋田大会、大分大会と連続優勝できたことで慢心があつたのかもしれない。本当に自分が情けなくて、「いい歳なのに」涙が出る想いでした。

自分自身、低いレベルなりにもプライドがあります。

だからこそ今年は課題を設定し、コツコツ「こたわって」稽古を続けました。毎週大学の稽古に混ざって汗を流しました。今年こそは必ず「攻めの柔道」に徹する！

そのために「攻めの組手」、「必ず先手」、「技を掛けきる」こ

とにこだわりました。

いつの間にか「無難に勝つ」ようになった自分の柔道を、「変えていく」取り組みでした。

中学・高校・大学時代を思い出し、そこにもう一度立ち戻ろうとしました。

そして、試合を終えて改めて実感できました。

「目標を定めて、課題を持って、自分なりに精一杯がんばった人間には、神様からちゃんとご褒美がある。」

自己満足ではありますが、今回の千葉大会での優勝は、自分なりの価値がありました。前年敗れてからの「取り組み過程」と「本番で課題をクリアできたこと」に大変満足できました。震災で諦めかけたから尚更です。震災があつて苦労したからこそ喜びでした。

更に、今回の試合で久々に思い出しました。

大会が大きい小さい、レベルが高い低い、市大会？県大会？全国大会？世界大会？...そんなことに関係なく実感できる「日々努力することの大切さ」と「勝利して湧き起こる感動と周りへの感謝の気持ち」。そして、同じように日々必死にがんばっ

ている仲間と日頃の成果を競い合い、清々しい汗を流す「気持ちよき」。

これらは何にも変えられません。何歳になつても最高です。

地元・仙台は やっと復旧から復興に向かう状況です。

しかし、私自身「忙しい」を言い訳にせず精進を重ね、今後日本マスターズ柔道大会が続く限り毎年参加していきたいと思っております。

長々と意味のわからない文章になつてしまいましたが、バカな奴の戯言と笑ってお許し下さい。最後に、日本マスターズ柔道協会役員の先生方の日々のご尽力に感謝し、お恥ずかしい文章を終わらせて頂きます

2012年山口大会でも宜しくお願い致します。今から試合が楽しみです！

第8回 千葉大会に参加して

(宮城県)渡部史郎

第8回千葉勝浦大会に参加させていただきました。大会への参加は、秋田大会に続いて2回目になります。大会参加のきっかけは、私の師匠が「子どもに柔道を教えている先生たちも、年に1回



ぐらい試合して、子どもの気持ちになつてみるのが大事だ。」という一言でした。

普段は、宮城県の山元町で、スポーツ少年団の指導をしています。今回の災害で、町の施設が使えなくなりました。隣の少年団の道場で合同練習させてもらえることになり、今年の活動を5月の中旬ぐらいから始めました。災害により生活環境は一変しました。練習に来たくてもなかなか来られない子どももいましたが、できる人から始めようということ練習を再開しました。今では、町の施設も一部使えるようになり、震災前とほぼ変わらない状況で練習できるようになりました。しかし、被災して他市町に引越したり、家庭の都合で辞めていたり子どもを取り巻く環境は、まだまだ厳しいものがあると感じています。どこに行つても、柔道だけではなく、何でもいのでスポーツを続けて、心身ともに健康に育つてほしいと指導者一同願っているところで

す。

そんな中で今回の大会参加になりました。マスターズ大会の楽しみはいろいろあります。

まずは、いろんな人の柔道を見られることです。秋田大会に参加したとき、80歳以上の選手の試合を見てとても感動しました。

また、70歳代の選手が相手の背中をつかんで払い腰で回している姿を見て、やはり日本は柔道の国なんだなあと思いました。いろいろの年代の選手の柔道を見られるというは、指導者としても勉強になります。今年の千葉大会でも、いい試合がたくさんありました。年齢が上があれば上がるほど、自分の体調管理をしっかりとしていることを感じさせられました。まさに生涯が修行だと思いました。

次に開催される土地のよさを味わえるということもマスターズ大会のよさだと思えます。今年は、勝浦の大会だったので、外房を見るのが楽しかったです。家族連れの方は、デイズニールランドなどにも行ったかもしれませんね。そんな楽しみ方もできるのいいと思います。

そして何よりも全国大会であるということ。現役のとき、全国大会などに出場したことのない私にとって、全国の人たちと

試合ができることはうれしいことです。全国大会一勝に向けて、できる限り練習して、都合のつく限り出場したいと思っています。

最後に今回の震災では、全国のみなさんからたくさんのご支援をいただきました。被災地は一歩ずつではありますが、復興に向けて歩み出しています。本当にありがとうございます。では、また来年、山口でお会いしましょう。

「私のマスターズ」

岩手県 守屋榮吉

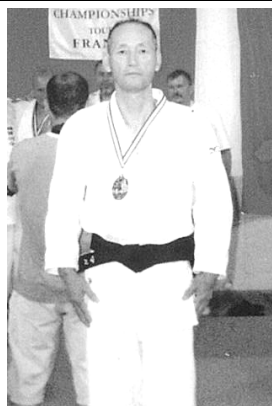
マスターズに関心を持ち参加し続けて六年になります。この間に得た世界マスターズフランス大会でのM56kgクラス優勝と本年の全日本マスターズ千葉大会でのM76kgクラス優勝というふたつのメダルはその輝きに似て私の柔道人生に大きな励みを添えてくれております。やはり『継続は力』だと思えます。何よりも家族やたくさん仲間に支えられていることの心地よさに、更なる精進を後押しされていることを強く感じます。

三月十一日に発生した東日本大地震はそのこと自体で大きな被害をもたらしました。私たちの住まいする一関市内で

は地盤の強弱によって家屋が大きく損壊した方々も多数いらっしゃいます。それでも黙々と対応する姿には地震の後に襲ってきた大津波によって言葉に出せないほどの犠牲を強いられた沿岸地区の皆さんへの限りない哀悼の心情がにじんでいるように感じられます。

柔道関係者の中にも多数の犠牲者がおられます。岩手県の内陸部に位置し我慢のできる程度の被害にとどまった私たちにとって「何か役に立てることはないのか」という思いには切実なものがありましたが、具体的な行動に移ることはなかなか容易ではなく、練習場を失った仲間に対処しわづかに柔道畳と稽古着をお届けしたに留まっておりました。

私が所属している一関柔道協会では、年間活動の締めくくりとして近郷の柔道愛好家なら誰でも参加できる柔道選手権大会を開催しております。小学校は学年別、中学校は男子学年別、



女子オープンそれに高校男子、女子一般、男子一般といったクラス分けでの個人戦です。今年はちょうど第三十回の記念大会に当たり、ここに試合の機会を失った沿岸地区の皆さんを招待しようとの発案から大船渡、志津川、気仙沼から八十数名の選手に参加いただきました。技を仕掛ける積極さ、何としても勝ち上がるという粘り強さの点でその活躍ぶりには目を見張らせるものがあり、今までの大会では経験のできない素晴らしい研鑽の場となりました。結果として八割がたの優勝杯は彼らの掌中に握られたものの、主催者側として「この大会、本当にやつてよかった」との感想を披露しましたところ、応援席のみならず参加した選手の皆さんから大きな拍手が沸き起こり、多少なりとも役に立てたことを喜び大会を終了いたしました。

柔道という競技を通じ、たくさん仲間と交流できていることが私のおおきな喜びです。改めて特に難しいことを考えるまでもなく慣れ親しんだ柔道の道を歩み進むことで仲間の方々の役に立てる……そのことこそマスターズの真骨頂であることに思い及び、爽やかな汗を流す昨今であります。

「TOPIX トピックス」

菅野隆行選手の記事が東海新報に掲載されました

日本マスターズ柔道で菅野選手（順道館）が優勝

第8回日本マスターズ柔道大会（日本マスターズ柔道協会主催）はこのほど、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで開かれた。形競技や試合などで国内外の精鋭らが熱戦を展開した結果、陸前高田市の順道館岩崎道場から出場した菅野隆行選手（37）＝高田町＝が2年連続の優勝を果たした。

大会には、30歳から87歳まで400人余りの選手が出場。5歳ごとのカテゴリーに分かれ、試合の部では個人戦や男女別団体戦が繰り広げられた。

このうち、順道館からは菅野さんが唯一出場。個人戦のM2（35



（39歳）90kg級にエントリーし、6選手によるトーナメント戦に挑んだ。決勝では小山敬久選手（大阪府）に1本勝ちを決めて、2連覇と3回目の入賞を飾った。

「震災後の状況なので、楽しんでくればいい」という思いで出場したが、勝っていくうちに「皆さんにいい情報をもたらしたい」と逆にプレッシャーになりました」と話す菅野選手。「陸前高田のゼッケンを着けていたので、優勝した際には知らない人からもおめでとう」と言われ、握手を求められました」と喜ぶ。

長年稽古を積んだ道場も津波で被災し、現在は高田一中の格技場で週に3回子どもたちを指導しながら技術向上に努める。道場に通えない日は走り込みなどの個人練習で調整を図ってきた。「今後子どもたちのために頑張りたい」と話している。

2011年11月15日付3面
写真・本文共 東海新報より転載

小坂重人選手の記事が北秋田市HPに掲載されました

この度の第8回日本マスターズ柔道大会においてM3-90kg級で見事に優勝されました小坂重人選

手の記事が平成23年11月14日の北秋田市のホームページに掲載されたのでご紹介いたします。

昨年の雪辱を果たす
第8回日本マスターズ柔道大会優勝報告

北秋田市消防署阿仁分署の小坂重人司令補が11月14日（月）、市役所を訪れ、虻川副市長に第8回日本マスターズ柔道大会の90kg級（40～44歳）での優勝を報告しました。

第8回日本マスターズ柔道大会が11月5日・6日に千葉県勝浦



市で開催され、小坂司令補は前年の新潟大会に引き続き今年も出場。年齢別体重別個人戦40歳～44歳クラスの90kg級で見事に優勝。決勝では昨年の決勝で敗れた選手から大内刈りで技ありを取り、雪辱を果たしました。

また、小坂司令補は同クラスの無差別級にも出場し3位の好成績を収めました。

小坂司令補は「昨年は新潟で負けたのが悔しく、今回は職場の方でも協力、理解をしていただき出場して優勝できました」と虻川副市長に報告しました。

報告を受け、虻川副市長は「明るい話題でうれしい。北秋田市消防本部のゼッケンを背負い、市のいい宣伝にもなります」となどとお祝いのご言葉を述べました。

また、小坂司令補は「勝ち負けは後からついてくるものですが出られる間は出続けたい」と今後の意気込みを述べました。

（2011・11・14）
写真本文共 北秋田市ホームページより転載

畑中孝一選手の記事がデーリー東北に掲載されました

この度の第8回日本マスターズ柔道大会においてM5 90kg級で見事に優勝されました畑中孝一選手の記事が平成23年11月17日のデーリー東北に掲載されましたので紹介します。

畑中さん（八戸）マスターズ柔道で金銀獲得（2011・11・17 22:21）千葉県勝浦市で5、6日行われた第8回日本マスターズ柔道大会の50～54歳90キロ級で、八戸市柔道協会副会長の畑中孝一さん（50）が頂点に立ち、同無差別級でも準優勝を果たした。

た。12日、デーリー東北新聞社を訪れ、優勝の喜びや今後の目標を語った。

写真本文共 デーリー東北より転載



池田選手・馬場選手の記事が 赤穂民報に掲載されました

この度の第8回日本マスターズ柔道大会において

M8-90kg級と無差別級の2種目で2位になられた池田正男選手、

M7-66kg級で3位になられた馬場猪虎雄選手(ともに兵庫県赤穂市)

の記事が平成23年11月9日の赤穂民報に掲載されましたのでご紹介します。

全国マスターズ柔道、赤穂勢が銀と銅

6日まで千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで行われた柔道の第8回日本マスターズ大会に



赤穂市柔道協会から2選手が出場した。

上飯屋の池田正男選手(68)が男子65-69歳・90キロ級と無差別級の2種目で2位、同60

1-64歳・66キロ級で加里屋の馬場猪虎雄選手(64)が3位になった

写真本文共 赤穂民報より転載

第8回 日本マスターズ柔道大会・千葉大会

日程：2011年11月5日(土)

6日(日)

場所：千葉県勝浦市 武道館研修センター

第8回千葉大会の記録(結果)

【形競技の部】

投の形

1位 取 上瀧 亨(大阪)

受 入江浩正(大阪)

2位 取 藤城靖博(千葉)

受 醍醐恵二(千葉)

3位 取 鈴木治雄(千葉)

受 石邑 勇(千葉)

固の形

1位 取 菅沼照子(栃木)

2位 取 江波戸友子(栃木)

受 養和田功(栃木)

3位 取 古峯弘道(栃木)

受 中島 忠(埼玉)

受 杉原 尚(茨城)

極の形

1位 取 榎本好史根(愛知)

受 春日井和幸(愛知)

2位 取 石邑 勇(千葉)

受 鈴木治雄(千葉)

3位 取 植木良夫(栃木)

受 古峯弘道(栃木)

柔の形

1位 取 松本紀子(愛知)

受 石川正栄(愛知)

2位 取 長崎桂子(石川)

受 済田千亜希(石川)

3位 取 岩田美喜(愛知)

受 内田みゆき(愛知)

講道館護身術

1位 取 榎本好根(愛知)

受 中村 太(愛知)

2位 取 内藤 純(栃木)

受 植木良夫(栃木)

3位 取 一瀬 誠(静岡)

受 竹内紀久夫(静岡)

五の形

1位 取 清家春夫(千葉)

受 駒崎義一(千葉)

2位 取 毛利 修(埼玉)

受 大石 萬喜夫

3位 取 井上康彦(栃木)

受 土屋正之(千葉)

古式の形

1位 取 清家春夫(千葉)

受 駒崎義一(千葉)

2位 取 井上康彦(栃木)

受 須長佛治(千葉)

3位 取 佐藤良吉(東京)

受 加藤隆雄(埼玉)

【年齢別体重別個人戦の部】

M1 60kg級

1位 林健太郎(埼玉県)

2位 栗原正幸(埼玉県)

M1 66kg級

1位 向井一浩(東京都)

M1 73kg級

鈴木淳(東京都)

惣田充(神奈川県)

近藤敏仁(愛知県)

山本洋文(高知県)

※四者同点 順位なし

M1 81kg級

1位 石森辰浩(宮城県)

2位 助川忠臣(千葉県)

3位 川村正人(茨城県)

M1 90kg級

1位 長田忠(東京都)

2位 渡辺寿徳(福岡県)

M1 100kg級

1位 高橋俊博(千葉県)

M1 100kg超級

1位 松原勝利(高知県)

2位 齋藤敏行(宮城県)

M2 60kg級

1位 小林行輔(埼玉県)

2位 佐藤政美(宮城県)

3位 荒井功(東京都)

M2 66kg級

1位 中山幸久(大阪府)

2位 成井亮裕(東京都)

3位 松平聖輝(神奈川県)

M2 73kg級

1位 佐藤真生(宮城県)

2位 富樫豊一(秋田県)

3位 相原友和(静岡県)

3位 谷川真也(東京都)

M2 81kg級

1位 草野成剛(福岡県)

2位 今村太郎(東京都)

3位 斎藤康則(東京都)

M2 90kg級

1位 菅野隆行(岩手県)

2位 小山敬久(大阪府)

3位 進藤仁(東京都)

3位	檀上智秀（兵庫県）	M3 90 kg級	1位	小坂重人（秋田県）	M4 81 kg級	1位	伊藤大介（山形県）	3位	橋本正之（鳥取県）	1位	一言力（静岡県）	
M2 100 kg級	1位	齋五澤学（群馬県）	2位	檀上竜二（愛知県）	2位	西村一晃（滋賀県）	M5 81 kg級	1位	森下良男（静岡県）	2位	松岡敦弘（福岡県）	
2位	中田浩（高知県）	3位	石井一宏（栃木県）	3位	石松浩行（千葉県）	3位	石松浩行（千葉県）	1位	田所 英幸（栃木県）	3位	武田純（石川県）	
3位	高橋一昭（千葉県）	3位	加瀬英喜（東京都）	3位	榎本好根（愛知県）	3位	榎本好根（愛知県）	2位	小池伸治（神奈川県）	3位	安井清一（千葉県）	
M2 100 kg超級	1位	井上省司（千葉県）	M3 100 kg級	1位	長谷川靖浩（千葉県）	M4 90 kg級	3位	佐々木裕二（長崎県）	M6 81 kg級	1位	真船寛（東京都）	
1位	石川裕之（千葉県）	2位	川坂修治（石川県）	1位	阿部雅人（東京都）	M5 90 kg級	1位	畑中孝一（青森県）	2位	横山孝信（石川県）		
2位	今嶋禄郎（大阪府）	3位	高宮和弘（山形県）	2位	森本正則（滋賀県）	2位	青木浩二（埼玉県）	3位	阿古裕弘（奈良県）	3位	高橋信二（岩手県）	
M3 60 kg級	3位	原口正秀（福岡県）	3位	原口正秀（福岡県）	3位	渋谷和志（東京都）	3位	前澤一吉（東京都）	3位	高橋信二（岩手県）		
1位	荒川浩司（千葉県）	M3 100 kg超級	1位	桧山尚浩（福岡県）	M4 100 kg級	3位	鍵山裕久（東京都）	M6 90 kg級	1位	卜部秀幸（愛知県）		
2位	西尾真治（埼玉県）	M3 60 kg級	2位	鈴木巧（静岡県）	2位	村上隆志（青森県）	2位	小池雅彦（埼玉県）	2位	大塚俊彦（埼玉県）		
3位	坂元哲志（鹿児島県）	3位	佐藤 正忠（埼玉県）	M4 100 kg超級	3位	高橋洋一（埼玉県）	3位	高橋洋一（埼玉県）	3位	牧岡卓（神奈川県）		
3位	菱沼健（群馬県）	M4 60 kg級	1位	小玉勉（兵庫県）	3位	窪田智之（愛知県）	M5 100 kg超級	1位	木村忠彦（兵庫県）	1位	中川博文（兵庫県）	
M3 73 kg級	1位	宮本功三（東京都）	2位	森田賢一（静岡県）	M5 60 kg級	1位	廣瀬聡（千葉県）	2位	児島恭司（岐阜県）	M7 60 kg級	1位	伊賀信義（山口県）
2位	土屋靖（和歌山県）	M4 66 kg級	3位	中村正人（北海道）	2位	今井 博（群馬県）	3位	南出敦生（和歌山県）	M6 60 kg級	2位	西谷博一（東京都）	
3位	菊地吉博（東京都）	1位	喜多康之（大阪府）	3位	久保篤士（神奈川県）	1位	北尾浩（兵庫県）	1位	北尾浩（兵庫県）	3位	鍋浦正（香川県）	
3位	長谷川浩（宮城県）	2位	清本英治（奈良県）	M5 66 kg級	2位	三田博之（千葉県）	M6 66 kg級	1位	養父洋介（兵庫県）	M7 66 kg級	2位	佐々木安廣（岩手県）
M3 81 kg級	3位	伊藤弘一（東京都）	3位	平野健太郎（千葉県）	3位	古城光展（大阪府）	3位	齋藤憲一（東京都）	3位	馬場猪虎雄（兵庫県）	3位	稲田豊（山口県）
1位	内藤弘純（栃木県）	M4 73 kg級	1位	岡村忠彦（東京都）	M5 73 kg級	1位	上田一美（愛知県）	3位	田中茂（東京都）	M7 73 kg級		
2位	King Jason（NZ）	2位	山下義寛（石川県）	1位	阿部雅人（東京都）	2位	森本正則（滋賀県）	2位	小池伸治（神奈川県）			
3位	玉田誠（兵庫県）	3位	西出大作（和歌山県）	2位	森本正則（滋賀県）	3位	渋谷和志（東京都）	3位	前澤一吉（東京都）			
3位	釘宮尚（千葉県）	3位	白田秀行（茨城県）	3位	榎本好根（愛知県）	3位	榎本好根（愛知県）	3位	高橋信二（岩手県）			

C u i l i n g			G r a a m e (N Z)						
1位	鳥津澄夫（千葉県）	3位	野島圭介（新潟県）	2位	奈良澄（愛知県）	F3	78 kg級	1位	ReedyEaster（NZ）
2位	久宮登三夫（栃木県）	2位	内藤純（栃木県）	3位	清水常雄（新潟県）	M11	73 kg級	2位	榮弘子（東京都）
3位	宮脇政美（香川県）	3位	清水常雄（新潟県）	3位	中村古（兵庫県）	1位	高橋勘十（岩手県）	1位	北由美子（石川県）
3位	西川求（神奈川県）	M8	73 kg級	3位	中村古（兵庫県）	2位	中山孝行（富山県）	F4	63 kg級
M7	81 kg級	1位	須長悌治（千葉県）	M9	81 kg級	1位	高橋勘十（岩手県）	1位	木村紀代子（栃木県）
1位	吉永豊貴（大阪府）	2位	葛西正臣（北海道）	1位	大塚治城（神奈川県）	M11	81 kg級	F4	78 kg級
2位	上木保男（千葉県）	3位	西尾勝彦（奈良県）	2位	川上勝（岡山県）	1位	原田照夫（埼玉県）	1位	木村紀代子（栃木県）
3位	諸山和美（愛知県）	3位	二村雄次（愛知県）	3位	福島哲夫（埼玉県）	M12	73 kg級	F5	57 kg級
3位	蓬萊敬（兵庫県）	M8	81 kg級	3位	毛利修（埼玉県）	1位	美濃岡清三郎（兵庫県）	1位	木下京子（宮崎県）
M7	90 kg級	1位	清家春夫（千葉県）	M9	90 kg級	M12	90 kg級	F5	63 kg級
1位	神園修一（東京都）	2位	三橋英夫（神奈川県）	1位	LittlewoodRick（NZ）	1位	山崎寛子（栃木県）	1位	村上さとみ（青森県）
2位	山本昭（兵庫県）	3位	荒木閔昌明（神奈川県）	2位	工藤博義（神奈川県）	1位	石嶋孝子（茨城県）	【年齢別無差別級個人戦の部】	
2位	向博文（埼玉県）	3位	役田英穂（埼玉県）	3位	今里宏一郎（東京都）	F1	78 kg級	1位	渡辺寿徳（福岡県）
2位	浅田千秋（群馬県）	M8	90 kg級	M10	60 kg級	1位	藤井敏江（茨城県）	2位	松原勝利（高知県）
M7	100 kg級	1位	堤貞介（北海道）	1位	杉原尚（茨城県）	1位	宇賀神裕子（栃木県）	3位	鈴木淳（東京都）
1位	安立俊二（兵庫県）	2位	池田正男（兵庫県）	2位	岡田庫次郎（兵庫県）	F2	63 kg級	3位	惣田充（神奈川県）
M7	100 kg超級	3位	大上敏幸（東京都）	M10	66 kg級	F2	57 kg級	M2	
1位	久保雅昭（東京都）	M8	100 kg超級	1位	若月良夫（新潟県）	1位	小池美由紀（茨城県）	1位	中田浩（高知県）
2位	足羽裕二（兵庫県）	1位	本多喬（新潟県）	2位	山本健夫（東京都）	F3	57 kg級	2位	草野成剛（福岡県）
M8	60 kg級	M9	60 kg級	M10	73 kg級	2位	岩泉恵子（岩手県）	3位	荒井功（東京都）
1位	大矢八平（兵庫県）	1位	鬼柳一字（岩手県）	1位	中井司朗（奈良県）	1位	岩泉恵子（岩手県）	M3	
2位	加藤忠勝（東京都）	2位	稲田盛良（長崎県）	2位	安河内浩（東京都）	F3	63 kg級	1位	松山尚浩（福岡県）
3位	山下繁男（愛知県）	3位	永島健次郎（千葉県）	2位	山本健夫（東京都）	2位	櫻井美幸（茨城県）	2位	栗原則充（山形県）
3位	清水周（東京都）	M9	66 kg級	M10	81 kg級	1位	山崎寛子（栃木県）	3位	小坂重人（秋田県）
M8	66 kg級	1位	大高秀松（東京都）	1位	佐藤勝志（東京都）	1位	山崎寛子（栃木県）		
1位	岡本美臣（東京都）	2位	石川厚二（東京都）	2位	野口宏水（東京都）	1位	山崎寛子（栃木県）		
2位	井田幹夫（神奈川県）	3位	中島忠（埼玉県）	M10	90 kg級	1位	山崎寛子（栃木県）		
3位	牧田幹男（岐阜県）	M9	73 kg級	1位	宮本隆（神奈川県）	1位	山崎寛子（栃木県）		

3位	King Jason (NZ)
M4	1位 甲能武 (大阪府)
2位	森本正則 (滋賀県)
3位	北条博嗣 (高知県)
3位	喜多康之 (大阪府)
M5	1位 小池雅彦 (埼玉県)
2位	畑中孝一 (青森県)
3位	田所 英幸 (栃木県)
3位	高橋洋一 (埼玉県)
M6	1位 ト部秀幸 (愛知県)
2位	横山孝信 (石川県)
3位	大塚俊彦 (埼玉県)
3位	小野三典 (千葉県)
M7	1位 足羽裕二 (兵庫県)
2位	神園修一 (東京都)
3位	吉成隆杜 (東京都)
3位	浅田三男 (神奈川県)
M8	1位 本多喬 (新潟県)
2位	池田正男 (兵庫県)
3位	堤貞介 (北海道)
3位	五十嵐徳英 (千葉県)
M9	1位 今里宏一郎 (東京都)

2位	Little Woodrick (NZ)
3位	工藤博義 (神奈川県)
3位	清水勝彦 (神奈川県)
M10	1位 栗村曜似 (滋賀県)
2位	奈良澄 (愛知県)
3位	山本健夫 (東京都)
M11	1位 高橋勲十 (岩手県)
2位	原田照夫 (埼玉県)
3位	中山孝行 (富山県)
M12	1位 太田尚允 (青森県)
2位	美濃岡清三郎 (兵庫県)
F3	1位 Reedy Easter (NZ)
2位	榮弘子 (東京都)
F5	1位 木下京子 (宮崎県)

【団体戦の部】

優勝	丸の内柔道倶楽部 (東京)
監督	浜田 理
先鋒	石森 辰浩 ○
次鋒	惣田 充
3将	松浦 義之 ⊖
4将	築達 秀和
5将	本田 信裕
6将	原 優
7将	浅田 千秋 ○
8将	清家 春夫 ○
副将	今里 宏一朗
大将	黒澤 正敬 ○
優勝	三田綱町倶楽部 (東京)
監督	安藤 洋志
先鋒	助川 忠臣
次鋒	永岡 祐一 ○
3将	鈴木智晶
4将	佐野 秀明 ⊖
5将	難波 英樹 ○
6将	一言 力 ○
7将	安藤 洋志
8将	西久保 博信
副将	清水 正敬 ○
大将	野口 宏水



丸の内柔道倶楽部・三田綱町倶楽部 合同祝勝会 (2011年12月26日)

三位	国武大OB・浜町体育館 (東京)
監督	保科 素
①	中山修②藤田一洋③大木恒毅
④	阿部雅人⑤牧岡卓⑥江口宏康
⑦	神園修一⑧矢田栄一⑨黒澤安博
⑩	山本健夫
東京ガス・大阪ガス (東京・大阪)	
監督	喜多 康之
①	小山敬上②中山敬久③犬飼朗
④	中村菊雄⑤小野三典⑥八坂楠夫
⑦	森啓充⑧須長悌治⑨⑩
「男子団体戦出場チーム」	
・千葉マスターズ柔道クラブ	
・(財)昭徳館 (栃木)	
・中野区柔道会 (東京)	
・柔練会 (兵庫)	
・滋愛会 (滋賀・愛知連合)	
・ニュージーランドチーム (NZ)	
優勝	茨城ママさん連合 (茨城)
監督	川村 正人
先鋒	石嶋 孝子 ○
次鋒	櫻井 美幸
3将	小池 美由紀 ○
準優勝	(財)昭徳館 女子チーム
監督	内藤 純
先鋒	栗原 早希江
次鋒	宇賀神 寛子 ○
3将	木村 紀代子

【大会を顧みて】

第8回日本マスターズ柔道大会

事務局長 小林潔司

はじめに、小生の柔道の通常の活動拠点は東京日比谷の丸の内柔道倶楽部であり、倶楽部の先輩諸氏が日本マスターズ柔道協会の役員（野口宏水名誉会長、清水正敬会長、清家春夫副会長、毛利 修副会長、伊藤久雄専務理事）をされている関係で、また自宅が千葉県習志野市（東京駅よりJR快速電車で30分）でもあることから事務局長へのご下命があり、平素のその高誼に対し、報恩の念を以て謹んで拝受させて頂くこととなりました。

前年開催県である新潟県柔道連盟より、大会運営に関する資料等を送って頂き、本年4月に自宅を事務局として立ち上げ、6月1日より当協会ホームページ



での告知、7月1日からはダイレクトメールによる大会要項、申込書を送付し広報活動・参加者の募集、協賛広告・協賛金の営業活動を行って参りました。

今大会から新しい手法を導入した点として、

①選手を応援する際に識別しやすくするため、また選手自身の自己意識の改革・啓発のため、そして主催者の立場として競技・試合進行の円滑運営を図るため柔道衣にゼッケンを縫い込むことを参加の条件として実施

②本大会会場が日本武道館研修センターとのことで、（財）日本武道館より大会の後援を頂き、併せて団体男子優勝チームに対して優勝杯と賞状の提供をいただきました。男子団体決勝戦では、丸の内柔道倶楽部と三田綱町倶楽部が10人制で5勝5敗で引き分けなく同率となり、代表決定戦を適用出来ず、主催者の判断で今回に限り両者優勝となりました。

③ボランティア審判の導入
競技参加者の中で70歳以下、顧問審判員、Bライセンス以上の審判資格を保有している方にボラ

ンティアー審判員としてのご協力頂くことが出来ました。

④大会運営実務においては、ほぼ全部門にわたって当協会本部実行委員会がその任を担当しました。初日の試合の開始時や、表彰式に関して不行き届きの点が多量にありました。当協会としては何ものにも代えがたい大変貴重な経験を積むことができました。

⑤電子メールによる参加受付の導入

今回の大会申込数は電子メールが121件、FAXが292件に仕分けられますが、FAXの80%が8月末日の申込締切日前の1週間に集中しました。一層の事務局業務の経費削減と作業効率の見地から今後は電子メールでの申込が促進されるよう参加者の理解を図って行きたいと考えます。

⑥国際武道大学の全面協力
大会は地元勝浦市の国際武道大学武道学科の協力を頂き、学生延べ105名を動員派遣して頂き、会場設営、受付、競技係員、撤去、清掃などの業務をチームワークを以て手際よくして頂きました。

本年はニュージーランドより6名の参加者を含む410名の選手が参加致しました。従って国内の単独大会としてはほぼ昨年と同規模の大会が開催されたことになりました。

今回の大会に係わって頂き大会を成功裏に導いて頂いた全ての皆様には、衷心より御礼と感謝を申し上げます。

【事務局よりのご連絡】

ホームページ内で『メールマガジン』の登録を随時受け付けています。

日本マスターズ柔道大会をはじめとする大会のご案内や参加の手続き方法、会報発行のお知らせなど、各種情報や書類・資料がホームページからダウンロードできる準備が整った都度、一斉メールを配信しています。『メールマガジン』の登録は、ホームページの上部メニュー「協会のご案内」から下へ伸びるサブメニューよりお進み下さい。

玉田 誠

【編集後記】

2011年3月11日・午後2時46分、700年か800年に一度という、マグニチュード9.0の地震、続く大津波が岩手、宮城、福島、海岸線を襲い未曾有の被害をもたらした。この悪夢から8カ月、第8回日本マスターズ柔道千葉大会は410名の選手を集め盛大に開催された。勿論、艱難辛苦を乗り越えて東日本からも多数の選手が参加し、勝者も敗者も同志のエネルギーをお土産に帰郷された。6/14〜6/23第3回世界グランド・マスターズ柔道ドイツ大会（フランクフルト）は、ドイツがフランスに迫る柔道人気と、共にアメリカと闘った同志の「絆」を脈脈と日本人に示し、帰国後の「撫子ジャパン」の優勝に繋がったように思う。2012年は第4回世界グランド・マスターズ大会が10/28〜11/4、於いてブラジル。第9回日本マスターズ大会が11/1〜11/11、山口県周南市で開催されます。再会を楽しみにしています。

西久保 博信